

PRESS RELEASE

2025 年 7 月 10 日

国立大学法人山口大学

国立大学法人秋田大学

国立大学法人香川大学

国立大学法人旭川医科大学

国立大学法人鳥取大学

超高齢・少子フロンティアを切り拓く国立 5 大学による包括連携協定

「Alliance 5（アライアンスファイブ）」に関する記者会見

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日本では急速な高齢化と少子化の進行により、高齢者の健康問題や医療費の増加といった深刻な課題が生じています。こうした課題に対応するため、超高齢化の最前線に位置する山口大学医学部、秋田大学医学部、香川大学医学部、旭川医科大学、鳥取大学医学部の 5 大学はこの度包括連携協定を締結し、新たな医療研究ネットワーク「Alliance 5（アライアンスファイブ）」を結成します。（別紙 1）

このネットワークでは IoT や AI などの最先端技術を活用し、各大学の強みや地域特性を活かしながら、臨床データや解析技術を共有できる全国規模の研究基盤を構築し、難治性疾患・希少疾患や加齢関連疾患の研究を推進します。この取組により、従来は単独の大学や地域では困難だった大規模な症例集積やデータの比較解析が可能となり、新たな治療法・予防法・診断法の開発が大きく前進します。

さらに、将来的には、健康年齢の延伸、地域医療の質の向上、医療経済の改善など、日本社会が直面する課題の解決に大きく貢献することが期待されます。

このたび、本取組について、下記のとおり東京都内にて記者会見を開催いたします。

当日の取材及び報道等について、ご高配賜りますようお願い申し上げます。

記

1. 日 時 令和 7 年 8 月 1 日（金）11:00～12:00【受付開始 10:15～】
2. 場 所 鉄鋼エグゼクティブラウンジ&カンファレンスルーム Room4・5
（東京都千代田区丸の内 1 丁目 8 番 2 号鉄鋼ビルディング 南館 4 階）
<https://tekkolounge.com/ja/conference-rooms/>

3. 次 第

10:15～ 受付
11:00～ 開始 出席者紹介
 包括連携協定書署名
11:10～ ご挨拶 谷澤 幸生 山口大学長
11:13～ 概要説明 田邊 剛 山口大学医学部長
11:25～ ご挨拶 各大学代表者
11:35～ 質疑応答
11:50 閉会后、記念撮影

4. 登壇者

谷澤 幸生（山口大学長）
田邊 剛（山口大学医学部長）
羽渕 友則（秋田大学医学部長）
西山 成（香川大学医学部長）
西川 祐司（旭川医科大学長）
永島 英樹（鳥取大学医学部長）

*取材を希望される場合は、7月31日（木）17時までに、別紙2「出席返信用紙」により
お申し込みください。

*当日は、名刺、社章（腕章）をご持参ください。

●この件に関する詳細は下記までお問合せ
ください。

国立大学法人山口大学医学部
総務課広報・国際係（担当：西村・前田）

TEL 0836-22-2009
FAX 0836-22-2113
E-mail me268@yamaguchi-u.ac.jp

発信者	国立大学法人山口大学総務企画部 総務課広報係 〒753-8511 山口市吉田 1677-1 TEL 083-933-5007 FAX 083-933-5013 E-mail sh011@yamaguchi-u.ac.jp
-----	---

(別紙 2)

「国立 5 大学による包括連携協定」に関する記者会見 ご出席返信用紙

会場準備の都合上、お手数をお掛け致しますが、下記項目にご記入頂いた上、メールまたは FAX にて 7 月 31 日(木)17 時までにご返送頂きますよう、お願い申し上げます。

山口大学医学部総務課広報・国際係（西村）宛

E-mail : me268@yamaguchi-u.ac.jp

F A X : 0 8 3 6 - 2 2 - 2 1 1 3

貴社名

貴媒体・部署名

ご出席者名①

ご出席者名②

ご連絡先 TEL :

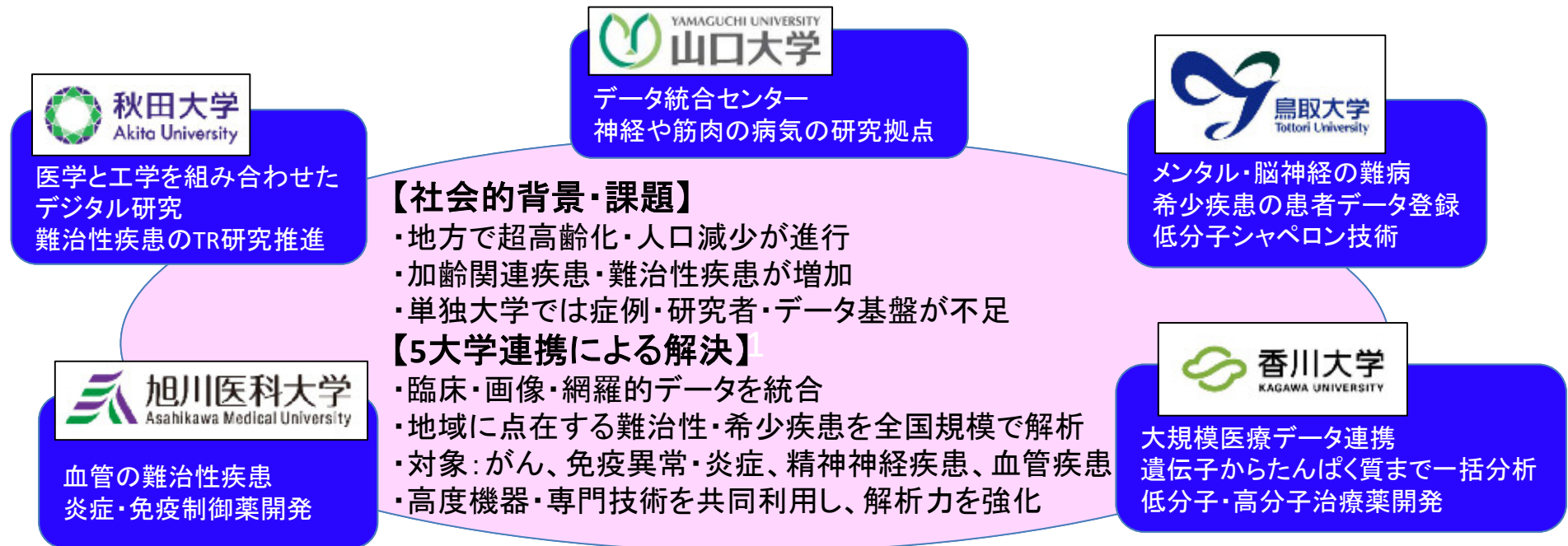
FAX:

Email :

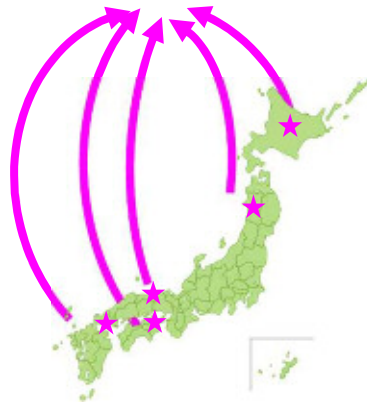
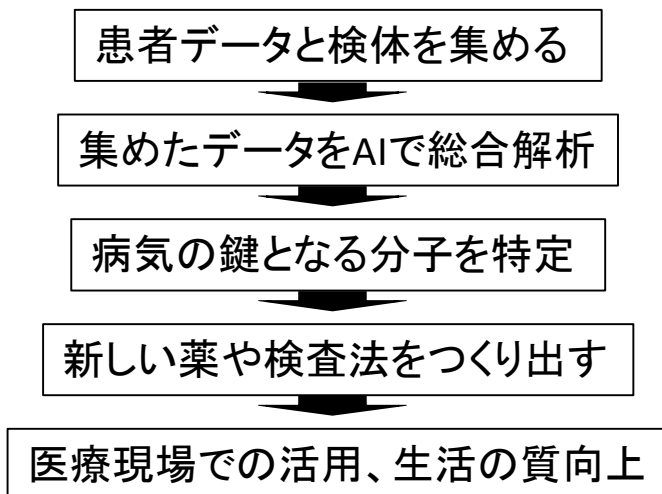
ご記入頂いた情報につきましては、山口大学の各種ご案内のためにのみ利用し、厳重に保管・管理・廃棄致します。

* ご取材・撮影に関するご希望やご質問は下記にお知らせください。

高齢化が最も進む地域の国立5大学が手を組む 全国規模の医療研究チーム「Alliance 5(アライアンスファイブ)」



【連携研究の流れ】



【展望・期待される効果】

- ・全国規模のデータ統合で、難治性・希少疾患の診断法や治療法の開発が加速
- ・地域医療の質向上と患者の生活の質(QOL)向上に貢献
- ・若手・女性研究者の活躍や大学間の人材交流が進み、研究レベルが高度化
- ・健康長寿社会の実現をリード